

保育目標	・丈夫な体と豊かな心を持つ子どもに ・素直で、思いやりのある子どもに ・遊びも仕事も学ぶことも好きな子どもに ・自然や美しいものに感動できる子どもに
------	--

一 当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

幼稚園教育課程と保育指針の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

重点項目	具体的な取り組み	自己評価と課題	平田先生コメント
幼稚園教育要領、保育指針を理解し、教育課程、保育課程の編成と実施	・日々の普段の様子をしっかり把握し、子どもたちの成長に合わせたカリキュラムを立てるようにする。 ・一つの行事にとらわれず、子どもたちの自然な学びにつながるよう、クラス・学年・全体で話し合い、活動内容を充実させる。 ・子どもたちから出る、自然な言葉、思いを大切にし、それをいかに情熱的な保育に繋げるか皆で思案し、子どもの向上心につなげる。	A ・まずは、朝の視診をしっかりして、保護者からの伝達を把握し、子どもたちの体調、様子の経過を見過ごさない。職員同士でも声をかけ合って、たくさんの眼で子どもたちを見守るようにした。 ・毎年同じ行事でも、職員がマンネリ化しないように基本に戻り、子どもに合わせた進め方をした。 ・子どもたちがたくさんの情報を得られるように、絵本や図鑑をじっくり見る時間を取り入れたり、園外保育の内容を大切にした。 ・子どもが熱中して遊び、興味を持って意欲的に課題に取り組めるような、保育の準備や環境設定にさらに力を注ぎたい。	・就寝が遅い子どもが増加傾向にあります。寝不足からの体調不調や流行病の早期発見は、未然に事故防止や拡大を阻止することができます。在職の看護士の先生との情報交換を密にし、健康管理のチェック体制をさらに推進してください。 ・毎年の行事は同じでも、聞くこと、知ること、経験すること全てが子どもにとっては新鮮です。子どもの視点に立って内容を工夫しましょう。 ・1Fの絵本のコーナーは、とても雰囲気が良いと思います。限られたスペースなので選書に心がけましょう。
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	・子どもたちの身だしなみを、排泄、着替えの度に自分からきれいにできるよう、毎日声掛けをする。段階を経て、子どものがんばりを褒める。 ・子ども同士のけんかには、双方の話をしっかり聞き、その場で解決する。そしてみんな、そのことについて考えたり、意見を言ったりする場を設けるのも必要だと思う。 ・個人懇談も決められた時期だけでなく、双方で、相談の場を設けることもある。	B ・子どもたちの前に立つ職員も、健康に留意し、身だしなみをきっちりして、子どもたちに臨んだ。 ・けんかなどにならないように、環境設定に配慮し、職員もどんどん子どもたちの遊びの中に入っていき、子どもの気持ちを掴むように工夫した。 ・子どもへの決めつけはぜったいしないで、いろんなプラス・マイナス方面からその問題について、職員間で議論を重ねた。家庭と園が協力して問題を解決させ、健やかな成長を望み、日々対応するよう心掛けた。	・子どもたちは先生をよく見えています。表情、素振り、ことば遣い、挨拶など、身近な子どもたちのお手本です。 ・身辺自立は、常に一人ひとりをしっかり観察し、その子どもに応じた対応を実践しましょう。アドバイスをし、見守り、できることに近づいている努力を認め、小さいことでも褒めてあげましょう。 ・一緒に遊べば、より子どもの性格や気持ちが把握できます。信頼関係のパイプをさらに太くしましょう。

保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化 地域住民との相互理解	・園だより、クラス便り、保健だよりの発行 ・H Pに日々の保育の様子を掲載 ・保護者メール配信 ・保育参観 個人懇談 保護者役員会 ・未就園児教室 保育体験 園庭開放 ・保育オープン DAY 幼保情報フェア ・夏祭りの実施・松原市市民祭り参加 ・地域の小学校との交流 ・近隣の方への配慮・あいさつまわり・お礼 ・松原市政府ティーコミュニティ防災訓練参加 ・幼年消防クラブ「防火パレード」 ・松原警察オープニングセレモニー参加 ・高齢者施設の方がたとの触れ合い（ご訪問）・豆まきには鬼になってご来園いただく。	A ・園での様子を、実際の眼で見ていただきたいので、設定した参観や、またその参観で見ることができない細かい活動（排泄、片付け、食事・・・など）をみることが出来る行事を設定した。 ・何か問題提起があると、職員会議で話し合い、役員会でも意見を聞いて、皆が納得できる回答を心掛けた。 ・地域の行事には率先して受け入れ、普段から助け合いの精神を持っておくよう意識することが課題である。 ・園庭での放送や活動は、近隣の方々にも配慮し、大きな音が出る際には前もってお知らせしたりして協力を得られるよう配慮した。 ・高齢者の方を思い、人との関わりを大事にし、やさしくいたわりの気持ちが育つような取り組みを行った。	・ありのままの子ども様子を参観で見て頂く方針は、とても良いことだと思います。保護者が普段では見られない子どもが頑張っている姿がより多く発見できると思います。 - また、祖父母を対象にした祖父母参観も好評のようです。 ・地域交流は重要な活動の一つです。地域の方々とより多く接する姿勢は、「園を知ってもらう」オープン化に繋がります。地域貢献という観点からも積極的に推進していただきたいと思います。 ・園運営は、近隣の方々の協力と理解が欠かせません。住民の方の事前了解は大切です。今後も近隣の立場に立った配慮をお願いします。
安全管理と施設設備の点検、補修,管理	・正門その他の場所での防犯カメラの設置 ・防災避難訓練の実施 ・不審者侵入避難訓練 ・警察と連携した防犯教室 ・消防署と連携した防火教室、花火指導、避難訓練 ・遊具施設や危険箇所、故障のすみやかな補修 ・災害危険、特別警報等の緊急時のマニュアルの確認	B ・駐車場や駐輪場での事故がないよう、保護者や職員皆で注意した。車での送迎が増え、さらなる安全への注意が必要である。一度に駐車できる台数が限られているので、制限を設けなければいけない。 ・毎日の掃除や整理整頓をかかさず、子どもたちにも率先して動けるように声工夫した。 ・毎朝お天気の日には、遊具の点検を兼ねて園庭の遊ぶ準備をした。お外遊びでは、子どもたちと砂を砂場にもどしたり、ゴミ拾いをした。 ・行事等で来られた方々に率先して挨拶をし、しっかり話を聞いて問題点などに気づかせていただいた。 ・避難訓練（火事、地震、不審者）では、防災ずきんもすぐに身につけられるように練習した。また不審者が保育室に侵入してきた場合を想定し、子どもたちだけで避難する練習もした。いろいろなケースを想定して、練習を続ける必要があると感じた。	・駐車場や駐輪場ではトラブルが多発することが予見され、その対策は急務と考えます。同じ道路を使用する近隣対策も大切です。保護者からの情報収集や警備の方の情報等をもとに、タイムリーに対策を講じてください。 ・梅雨の時期は、遊具が濡れてそのまま使用するには危険なこともあります。雨上がりの外遊びでは事前にチェックをお願いします。 - 危険予知・対策はしすぎることはありません。いつでもどこでも「子どもの動線」で問題意識を持って安全に努めるよう心がけましょう。 ・子どもができることを一緒になって掃除や清掃、整理整頓をすることは、とてもよいことだと思います。子どもたちをいっぱい褒めることができますね。

子どもの健康と安全への配慮	・登降園時の視診 ・生活習慣の確立 ・個人の成長記録(いろんな分野)をしっかりとる。 ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診と身体測定 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 ・自園給食での栄養バランスの改善、アレルギーの細かい対応 ・空気清浄器の設置 ・感染症が出た際の園内の消毒を徹底し、感染拡大をふせぐ - 家庭でもできる消毒や処理の仕方をプリントする。 ・夏は園舎内、園庭に蚊取り線香を数か所置き、子どもたちには虫よけスプレーやミストをこまめに使った。	B ・視診で気になったことはすぐに保護者に確認した。 ・服装やつめ、手洗いなどに注意し、清潔が保持できるように促した。 ・感染症を少しでも防ぐために、気温に応じて室内環境を整え、消毒、換気を心掛けた。 ・園バスで嘔吐した場合は、速やかに処理したり、無線で先に園に連絡して、着いたらすぐに加勢してもらえるように連携をとるようにした。 ・こま目に、クーラーや清浄器などのほこりやフィルターをきれいにした。 ・毎日の掃除を欠かさず、園舎内外を清潔に保つことが課題である。	・いろいろな感染症に備え、常日頃から手洗い、手拭き、うがいを徹底しましょう。年少さんもいろいろなことに慣れてきました。「なぜ」そうしなければならないかを話あい、清潔にすることの重要性を共有しましょう。 - また、園庭での運動会等の練習は十分な体調管理が大切です。子どもの観察をしっかりとし、熱中症等の防止に備えましょう。 ・空気清浄機やクーラーなどの手入れにも気を配る姿勢は素晴らしいと思います。 ・家庭での消毒方法の配付もとてもよいことだと思います。園と家庭のタイアップで子どもの健康の保持に邁進しましょう。
----------------------	---	---	--

の

今後の課題

保育のカリキュラムを組立てていく上で、その年齢の成長課題や、そこにたどり着くまでの細かい内容が重視されている。

また、子どもたちから自発的な挨拶、思い、意見などが出るよう、言葉のカリキュラムを基にしっかり身に付けていきたい。

遊びの中から、子どものいろんな面に気づいたり、行動を推し量ったりできるので、どんどん子どもの中に入っていくことが大事である。いかに子どもの目線に立ち、何を望み、どんなことに興味を抱くのかをとらえ、どのような言葉をどんなタイミングでどんなトーンでかけるのかを熟練することが大切で、保育士それぞれが日々の保育の中で試行錯誤しながら習得できるように、保育士間での情報交換を活発に行いたい。子どもの主体性や自主性を尊重するとともに、集団生活でのマナー、約束事を守れること両面のバランスをとることも課題である。

「しかり」と「おこり」の違いをしっかりと把握して、熱意を持って、子どもに接していかなければならない。

今後の課題について (平田先生コメント)

認定こども園移行に伴い、1歳からのより低年齢化した質のよい保育を保護者から求められています。年齢に応じた子どもたちの成長、能力向上、集団生活におけるルールの順守、安心・安全な保育など多岐にわたります。

そんな中、常に必要と思われるのは、「子どもの観察」です。観察すると、どんな子どもでも褒めることがいっぱいあります。褒めれば自然と子どもとの信頼関係が強固になるばかりか、保育の課題も見出すことができます。保護者とのコミュニケーションも話題が豊かになります。たゆまぬ子どもの観察をお願いします。また、左記の課題にありますように園児と積極的に遊び、子どもの心の中に飛び込んで欲しいと願います。